



共同通信



2010年11月26日 171(381号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 71 「そこに毒がある」

少し前のことですが、山菜やキノコが良く取れた時期には食中毒による報道が幾度かされていました。知り合いの間でも、善意で分けて頂いたキノコが実は・・・ということも耳にしました。友人は実際には食べなかつたので問題はなかつたのですが。

「毒」(ドク)という響きには何ともファンタジックなイメージがしてなりません。白雪姫で使われる毒リンゴや冒険物語にありがちな毒ヘビなど。老婆が鍋でかき混ぜるドス黒い紫色の液体というイメージは、視覚的にはよく分かりますが、実際にそういうものは存在しません。という

か、毒というのは科学的に人体に危険な影響を与える物質の総称であり、実際にはアルカロイドタキシンやヒペリシンやタンニンなどの化学物質が正体なのです。

少し回り道をして、「毒」と言う漢字の成り立ちを見て見ますと、下の部分は「母」と言う字で女性を意味し、上の部分はかんざしを指している様子を表現しています。かんざしは3本も使われていることから厚化粧の状態であり、そこから「好ましくない」という意味合いになったようです。女性の方には申し訳ですが、なるほど思い当たる部分もあります。しかし、「毒」の成り立ちはこの説だけで

時代にふり回されるのではない
あの時 心を躍らせて生きた
後悔に 身をふるわせたこともある
笑い 泣き 歯ぎしりをした
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい

はありません。中国では「毒」と言う漢字自体が「漢方薬・精力剤」を意味したことから、必要以上に肉体に与えると害が起こるという意味に転じたと言われています。こちらの方が具体的な状況が想像できる分、厚化粧の説よりは真実味があるかなとも思います。

さて、「毒」の漢字についての説明はこれくらいにして、日常生活やガーデニング、ちょっとした登山・ハイキングで出会う毒を持つ植物について、私の知る情報を皆さんと共有しながら、安全を考えていきたいと思えます。

毒を有する植物、有毒植物は、草木、花、樹木、種、球根など形態も豊富で全てを覚えて見分けることは大変な作業です。ですから、非常に身近にあって、しかも、被害などが既に出ているものを中心に上げていきたいと思えます。

東京都福祉保険局が出しているリーフレット、「身近にある有毒植物」は見やすく、説明も分かりやすく、インターネットで手に入れやすいことも含めると、説明不足や種類の少なさを加味しても一般的に使いやすいものかと思えます。

有毒植物・・・グロリオサ、チョウセンアサガオ、スイセン、フクジュソウ、バイケイソウ、ジギタリス、ヤマトリカブト

おそらく、町のあちらこちらで見かけたことがあるでしょう。これらはキレイな花を咲かせたり、室内に飾られたりする観賞用植物です。気を付けたい点は、グロリオサであれば球根はヤマイモに似ている色と形状であること、チョウセンアサガオであればオクラに似たようなつぼみを持つこと、スイセンの葉はニラを少し大きくしたような似たものであること、フクジュソウの若芽はフキノトウと色が同じであることなど、それぞれに似た食用植物があるということです。食用として慣れたものと間違えることで食中毒は意外と簡単に起こってしまうのです。また、草だから安全だろうと言う安易な草食人間的思考も山菜取りにあるパターンです。東京都の調べで平成9年～平成18年で最も事故数が多かったのはバイケイソウで、これもまた、食用のオオバキボウシやギョウジャニンニクと似ている点が問題なのです。何と言っても農家などのプロでも間違えてしまうのですから。

そして、最も身近な物でしかも有毒性が高い野菜にジャガイモがあります。小学校で育てたジャガイモを食べて食中毒が起こることはよく耳にします。

ジャガイモは私も大好きで良く食べる食材の1つですが、ジャガイモにはソラニンという有毒物質が多く含まれています。それは、無色透明の水

溶性であるため、口にうっかり入れてしまう可能性が高いのです。特にそのソラニンが有毒性を持つのは発芽部分、皮付近であり、状態としては表皮が緑色に変色した時や、栽培途中の未熟なジャガイモは危険な量のソラニンが存在します。調理の時にはジャガイモの状態を調べ、変色した部分、皮、芽をしっかりと切り取り、よく水で洗い流すとともに、ジャガイモが浸かった水は飲まないように心がけましょう。

この他にも生の白インゲン豆やモロヘイヤの種子も有毒植物として知られています。まだまだ紹介したい植物がたくさんあるのですが、それらは少し外出をしたとき、山菜を取るときなど気をつけることなので、興味のある方は調べてみて下さい。

さて、有毒植物のほんの一部を紹介しましたが、いわゆる「毒」というものはなく、適切な処理を行ったり、使用に気をつければ安全に扱うことができます。これら有毒植物は中国では漢方の材料として重宝されるも

のもあり、正しく用いれば副作用のない薬にもなります。そして、このような有毒性はそれぞれの植物が自らの種の保存のために、身を守るために持つものであり、無闇に他の生命を傷つけることを目的にしているのではないことを理解しながら、毒を持つ植物もまた地球に生きることの素晴らしさを知って頂ければと思います。

(森嶋 道)

森嶋先生は、伊丹教会の伝道師で、兵庫教区の教育部の委員をしています。NPO 法人「人と人および人と自然をつなぐ企画」が行った後川でのキャンプ・リーダー講習会に参加し、自然に触れる中で自身の興味のある“毒きのこ”をテーマに決めて、原稿を寄せてくださいました。

「現代社会では、核家族が普通で、母親こそが育児の責任を持つものであるかのように社会通念が作られてきた。しかしそれは違う。親の役割はもちろん重要だが、『子どもは社会で育てるもの』という考えは一つの政治理念や社会思想ではなく、ヒトの生物学的な特性なのだと理解するべきだろう。」

(長谷川真理子)

「わたしは、決して動かされることはない」とは言っていますが、それには“条件”があって、「安らかな時」です(以下「」内は詩篇30篇より)。同じように、「ゆるがない山のように固くされている」ことも「あなたの恵のもとにある時」です。“しかし決して動かされることのない”“固くされている”ことの強い自覚を、ゆさぶり打ちくだくものがあります。「わたしの魂を陰府から引きあげ、墓に下るものうちから、私は生き返らせて下さいました」で言われているところの死が、ゆさぶり打ちくだくものです。死、それは了解し難いものなのです。了解し難い死と向い合う時の叫びが、「わたしが墓に下るならば、私の死になんの益があるでしょうか。ちりは、あなたをほめたたえるでしょうか。あなたのまことをのべ伝えるでしょうか」となって、死を了解し受け入れることを拒んでいます。そして更に、死は無残なものであること、そこからの脱出を切に願って

います。「『主よ、聞いてください。わたしをあわれんでください。主よ、私の助けとなってください』と」と。「おじ惑っている」自分がいて、「ひたすら主に請い願う」自分がいる時、そして「わたしの助けとなってください」という願いは、願うことによって「嘆きを踊りにかえる」ことと、ならないのです。そのことを更に、「荒布を解き、喜びをわたしの帯とされました」などの言葉になるのは、一方的に“主”(なる神)の働きが実現したのではなく、“願う”こともまたその力になっています。そして“主”の前で、大きくはないけれども、確かなものとしてそこにある自分について言及します。ここで貫かれているのは、死の前にひれ伏す者の姿でもなく、やみくもに死を拒む態度でもありません。死は厳然とした事実であること、即ち“墓に下る”で言及される、容赦なく生を断ち切る事実ではあるのですが、全く立ち向かい得ないものではないことが示唆されてい

ます。「『主よ、わたしの助けとなってください』と」。

助けを求める“私”がいて、わたしのために、嘆きを踊りにかえる“あなた”がいる時、そこで繰り広げられている世界を、ずいぶん大きなものとして描いています。人が“主”(なる神)と向い合うすべてをつつみこむ宇宙と言えなくはありません。いずれにしても、“墓に下りる”ように引きずり込まれていくよりない死と、その世界を引き受ける歩みが、ここで始まっています。どうしてそんなことが可能になったのか。人と死が真っ向から対峙してしまう時、のっぴきならない、どんづまりの関係が待ち受けます。死は、そんなたやすく立ち迎える相手ではないからです。「主よ、聞いてください。わたしをあわれんでください。主よ、わたしの助けとなってください」は、主(なる神)へのギブアップを意味しません。「これは、わたしの魂があなたをほめたたえて、口をつぐむことのないためです。わが神、主よ、わたしはとこしえにあなたに感謝します」は、“神・主”への無条件の依存も意味しません。

同じように、「主の聖徒よ、主をほめうたい、その聖なるみ名に感謝せよ。その怒りはただつかの間で、その恵みはいのちのかぎり長いからである。夜はよもすがら泣き悲しんでも、朝と共に喜びが来る」で前提になっ

ているのは時間です。“主の聖徒”に与えられている時間には限りがあります。“聖なるみ名”(主なる神)の時間は、変幻自在です。限りある聖徒(人)の時間と、変幻自在の聖なるみ名の時間の交差する様子が、ここでは描かれているように読めます。主の聖徒に、主のみ名をほめうたうということが起こる時、もし、いつ果てるかもしれない怒りの中にさまよう自分の時間が、“ただのつかの間”になり得るし、夜もすがら泣き悲しむことがあったとしても、朝と共に喜びが来る、喜びに変わるということも起こり得るのです。

(菅澤 邦明)

~今月のり~

刻一刻と迫る冬に、あんなに暑かった夏を忘れてしまいそうになっている自分に気付きます。

11月28日に待降節第一週を迎えます。去年の今頃は何をしていたのか、今年の自分は去年に比べどう変わっているか・・・、毎年必ず訪れる約束の日のおかげで、過去を捨て去ってしまおうとしている自分と、本当は過去と向かい合わないといけない自分のことを知らされます。

神さま、どうか今年もあなたの降誕を待ち望む日々を豊かに過ごすことができますように。

過去の出来事を糧にして、未来に向けて希望を抱くことができますように。

(大平 有紀)

“盛りだくさんすぎて～”

子どもたちと過ごす楽しい日々。その日の始まりの朝に、祈りの時間があります。一人の先生が祈りの中で、「盛りだくさんすぎて、どのようにお便りに書けば良いのかと思うくらいに豊かに過ごしている。」という内容の言葉がありました。保育の様子や子どもたちのつぶやきなどをクラスだよりでお知らせしていますが、私も同感でいつも原稿用紙とにらめっこしています。

とりわけ10月には甲山登山、11月は運動会、公同まつりといつも以上にウキウキ・ワクワク・ドキドキがとまりませんでした。

甲山登山、青空の下にそびえたつ甲山のその美しいこと！ぼっぼ組、さんぼ・らった組、はっぱ・ねっこ組、それぞれの持っている力に合わせたコースで頂上を目指しました。上を目指して「神呪寺」からの階段をひとつひとつ登っていくぼっぼ組の後ろ姿がとても素敵でした。おもしろいつぶやきが聞こえてきたり、友だちを励ます姿があったり、手やお尻をついても自分の力で歩き続ける様子を楽しませてもらったり、感動した一日でした。

運動会、毎日の保育生活がつながったこの日。散歩やおでかけ先で

楽しんだこと、歌ったことなどが、園児たちによって能登運動場という場所で、自分の持っている力を出しきっている姿は、みんな輝いていました。年長のリレーは特にすごかった！もちろん、お家の方も！親子の時間を楽しんで、8の字、綱引き、リレーと盛り上がり、おじいちゃんおばあちゃんもたくさん参加して下さいました。運動場にいる人たち全てがひとつの空気になった一日でした。

ハロー！が今年のテーマ。その言葉にふさわしい11月の毎日。もちろん公同まつりも。感激したのは、役員の方々による心のこもった布製手作りのカウントダウン表。このおかげでとても楽しいおまつりまでの一週間を過ごすことができました。クリスマスを心待ちにする、アドヴェントカレンダーのようでした。

子どもたちの表情は、期待でいっ

ぱい！今までがあつてのこの日、たくさんの笑顔にあふれ、出会いにあふれた一日となりました。

登山、運動会、公同まつり、どの日もおだやかなお天気にも恵まれた事も嬉しいことでした。

大きな楽しみの間にも、どんぐり拾いやコスモス畑への遠征など、秋も大満喫！年長組は「進水式」にも出かけました。「今」を「季節」を、たくさん楽しんでほしい、感じて欲しいという願いや想いが、込められた毎日を、子どもたちと共に過ごすことができることに感謝しています。そして、その日々が子どもたちの明日へとつながっていくのだと信じています。

(木村 寿実)

みかん便り

こんにちは。愛媛は10月が終わり、急に寒くなってきました。関西はもっと寒そうですね。

10月は特別支援学校へ介護等体験に行ってきました。2日間だけの実習でしたが大変でした。

担当したのは小学部の重度の障害のクラスです。どんなクラスでどんなことをするのかも全く想像ができずに教室に向かうと、まず最初にお

母さんたちのお話がありました。抱き方、ご飯の食べさせ方、寝かせ方、車イスの乗せ方降ろし方など、先生からではなく保護者の方々から直に教えてもらいありがたかったです。お母さんが1番我が子のことを分かっているために、研修生にはお母さんが丁寧にお話ししてくれるのがこの支援学校のやり方だそうです。

そんなこんなで子どもと合流！う 7

ちのクラスは3人体制でした。まずは車イスから降ろさないといけないのですが、これが難しい...みんな首が据わっていないので、へたな抱き方もできず、毎回毎回緊張で怖かったです。たぶん、お母さんたちも何も分からない実習生に自分の子どもを任せるのは怖いと思いますが、それでもしっかり教えてくれたお母さんと先生方には感謝です。1日目は普通の学校生活。朝の学活に、図工と音楽、そしてリハビリに給食。2日目は動物園へ遠足。何度か現場の小学校に勉強には行かせてもらっていますが、特別支援学校は今回が初めて。『健常者』って言い方はあんまり使いたくないですが、健常者のクラスは何もしなくても時間が過ぎていくのに対して、やはり特別支援学校は一つ一つの支援(?)手助け(?)に気を使わなければならないことに驚きました。大変そうだとは予想してはいましたが、やっぱり大変でした。1番記憶に残っているのは遠足での昼食です。遠足ではレストランで食事をしましたが、車イスを入れるために椅子の配置や机の配置を変えさせてもらったり、おむつを替えるスペース作りに、それを隠すための目隠しになるものの配置、座りつかれた子を寝かす休憩スペースの確保。1つの校外学習を行うためには裏でいっぱい動いている先生がいることを初めて知りました。持ち物もその分多く、何より

遠足を行うまでの打ち合わせがとても綿密でした。1人の子を1人の先生がしっかり見る。寒さ対策やインフルエンザ、風邪の予防など、校外に出るための下準備が半端ではなかったです。風邪だけでも命の危険にかかわる子が多くいるために、校外学習はいつも厳戒態勢らしいです。今回の動物園は昼食時など、理解をたくさん示してくださっていましたが、他の施設はまだまだ理解してくれるところが少ないため、遠足先を探すのも一苦労だとおっしゃっていました。うーん...大変ですね。

朝から夕方まで動きっぱなしで疲れもたまりましたが、そんな中、はじめは何も反応してくれなかった子達が不意に笑ってくれたり、声を出してくれたり、小さな反応を返してくれることが本当に嬉しかったです。でも、ずっと喋っていてもそこまで反応を感じ取ることはできませんでした。隣にいてくださった先生が「うれしそうやねー」「楽しいんやねー」と教えてくださってようやくわかる感じで、自分には笑顔ぐらいしかわからなかったです。一見泣いてるように聞こえても、嬉しくてテンションが上がっていたり、かすかに喉を鳴らすことが喉が渴いた合図だったり、すぐに伝わり感じる事ができる現場の先生はやっぱりすごい! 2日で解るわけもないのですが、もっと子どもたちと深く向き合ってみた

かったなぁと思います。次は6月の教育実習！！踊りの本番に挑む気持ちで行こうと思います。楽しみやぁ
それでは今月も読んでいただいてありがとうございます。でわでわ

(河村 高志)

すずや便り

こんにちは。夏から冬？ と思った日もありましたが、自宅から駅までの間に季節を感じつつ楽しく通勤しています。電車通勤とはいってもわずか2駅先の大宮駅です。ヤフーで「路線」検索に入力すると「大宮(埼玉県)」「大宮(京都府)」と出てびっくり。阪急京都線にも大宮駅があるのですね。そういえば、大阪で初めて地下鉄に乗ったときに「あびこ」駅を見つけて驚いたものでした。私の中であびこといえば、千葉県の「我孫子」駅でしたから。

さいたまの大宮駅は、JR、私鉄合わせて13の路線が乗り入れる埼玉県内最大規模のターミナル駅で、駅中のショッピングモール「エキュート」が最初にできた駅だそうです。

近くにはそごうや、高島屋、丸井にLUMINEもあり、エキュートは食品(スイーツ!)も充実していて、これは楽しまなくちゃ損!なのです。

ある日、昼休みに店内を眺めていたらかわいいポンチョがたくさんありました。そういえば、昨年あたりか

らポンチョをよく見かけるようになっていました。自転車で移動するときは風が通るので悩んでいましたが、最近では徒歩のほうが多いので一着はあってもいいかも、と購買意欲に火がつかしました。仕事の後に改めて店内を回り、これ!という一着にめぐり合いめでたく購入。翌日は友人と会う予定があったので、早速それを着て出かけました。ところが、待ち合わせ場所に行く途中(まだ朝です)パンツに毛糸がびっしりついているのではないですか!これから一日が始まるのにどうということ~?と見てみると、ポンチョのフリンジがほどけて糸くずになっているのです。おもわず、パンツをこすってみると換毛期の犬から出るような毛玉になってしまい....。

仕方がなくその日は毛玉をネタにして、帰宅後お店に電話を入れて交換してもらうことにしました。夜になってポンチョを前に考えました。フリンジはもともと撚りがゆるい毛糸なので、交換しても同じようにほ

どけてくる可能性は大きい。その場合、1. 交換品の状態を見て返品にしてみらうか、2. モノは気に入っているので、とりあえず交換してもらおうか... この場合は2です。その後、再度毛玉になったら 1. いろんなパンツ、スカートを合わせて毛玉が出にくい組み合わせを見つける、2. フリンジを全部はずして着用、3. 色が似ている撚りのきつい毛糸を購入、フリンジを付け替える～ さあ、みなさんならどうしますか？それとも第4の策があるかも…。悩める秋です。

(富家 香麻里)

教会学校から

《10月の活動報告》

10月3日(日) 鹿肉カレーを食べる

10月10日(日) わなげ大会!

10月17日(日)

幼稚園のみんなと一緒に大なわで8の字大会をしよう

10月24日(日)

全国上映キャラバンを呼ぶ

藤本幸久監督のお話&「また、また、辺野古を考える」上映会

10月31日(日)

“星ころ”を作る・“星ころつり”で遊ぶ
沖縄竹富島の伝統的なおもちゃの星ころは、アダンの葉で作ります。教会学校ではPPバンドをホッチキスで止めてつくった“星ころ”を、ペットボトルの底を切り取ってつくった釣りカップですくって遊びました。

《11月の活動予定》

11月7日(日)

にしきたバーガーを食べる

篠山市後川のおからと黒豆、そしてお米を使ったヘルシーなにしきたバーガーは、公同まつりでも売り出し、100個が即完売の大盛況でした。

11月14日(日) 射的大会!

11月21日(日) クリスマス・ツリーを作ろう

11月28日(日) クリスマス・ツリーを作ろう

2010年11月 あんなこと こんなこと...

大切な贈り物・津門川 9 7
“ 津門川しらべ ”

武庫川から始まった「津門川調べ」は、次回第7回で今津港に到着する予定です。

(小学5年生 杉本悠斗)

つとがわ 編集後記

待降節と共に、西宮公会教会（幼稚園でも）飾られる“アドベント・克蘭ツ”は、幼稚園の庭の“ホーリーツリー”で作られます。楕円形の葉っぱの先が、逆カーブを描き、針のようにとんがっていて長く伸びた枝は克蘭ツを作るのに最適、自慢のホーリーツリーです。5、6年前まで、待降節に合わせるように付けた実が赤なくなっていました。一昨年、昨年と、克蘭ツを作る時期になっても、まばらにオレンジの実が見つかるだけで、今年もほぼそんな具合で、待降節を迎えることになってしまいました。一昨年も昨年も、克蘭ツの赤い実は、幼稚園の庭の南天の実で間に合わせることになりました。今年は、その南天に赤い実が見つからない為、Mさんの庭の南天の実を届けてもらうことになりました。

(K)

髪をバツサリ切りました。4年近く伸ばし続けた髪、切ってみると、切ろうかと悩んだ時間が嘘のように、すっきりしています。シャンプーも、髪を乾かすのも楽チン もっと早く切ればよかったなぁ～なんて。朝起きたら、後頭部は鳥の巣ですが（笑）

(I)

家にいるときは常にリビング、自分の部屋に行くのは寝るときだけ。

なので、自分の部屋がだんだん物置状態に...この年末までにはなんとかしないと～。今から少しずつ片付けはじめようと思いますが、やりはじめると時間に時間がかかりそう...

(Y)

また切り紙の本が増えました。マスキングテープもかなり増えて 55 本になりました。いろんな切り紙を楽しみながら、マスキングテープをちぎりながら今年の寒中見舞いのハガキは何を切ってどんな感じにしようかなぁ～と悩んでいます。

2010年、残り1ヶ月で早く考えなきゃ！ハガキも買いにいかなきゃ！と焦りながら12月を迎えようとしています。

(N)

孫からの緊急電話、じいじの特製なわとびが見つからない、あれでないと跳べない！じいじ・ばばは文句なく大急ぎで駆けつけ、目の前で仕上げた。彼女のはわたしが持っている「くちなわ」（ご存じの方は「ああ、あれか」と）と同じもの、透明の特製。

ところがそのロープが見つからずホームセンターに買いにいくと何とピンクが。で、新しく可愛いのが（跳ぶには可愛くなくてもいい！）できあがり、翌日に実にうれしそうに登校したそう。「あかりちゃん、失くしてよかったね、今度はピンクになって。みんな羨ましがるよ」のわたしの発言に、厳しいおかあさんが「そんなこと言わないでください！」。で、いつもわたしは甘い指摘される。

いいじゃあないですか、失くしものOK、何せこちらは豊かな自然にくるまれて生きているんですからね、人のありようを何でも受け入れられる心の余裕というのがあるんですよ。と言うより、何よりこの自分が毎日モノ探しを飽きもせずに行っている。

幾層もの紅葉した葉っぱの重なりがたとえようもなく綺麗な今の季節。これは春の若葉から始まった。そして若葉が誕生する前は～そんな生態の環を思う。そこで人の営みはきわめてちっぽけ、でもそれを日々大事にして時間が降り積もっていくのですよね。ところでこの孫、27日におねえちゃんになりました！

(J)